

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	R.K.	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	ライデン大学		
国・地域	オランダ		
派遣期間	2025 年 9 月 ~	2026 年 8 月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Spreken/Luisteren 1A, Taalverwerving	オランダ語の話す・聞く力を養う
Lezen/Woordenschat 1A, Taalverwerving	オランダ語の読む力・語彙を養う
Schrijven/Grammatica 1A, Taalverwerving	オランダ語の書く力・文法力を養う
Nederlandse geschiedenis 1: van Prehistorie tot Patriottentijd, Cultuurwetenschap 2	先史時代からナポレオン統治時代までを学ぶ
Nederlandse Letterkunde 1: van Middeleeuwen tot Verlichting, Cultuurwetenschap 2	最古のオランダ語詩から 18 世紀の書物を読む
Dutch Debates - Topical Questions in Dutch Society, Culture 1	オランダ社会が抱える問題を英語で議論する
Culture and Society of the Netherlands: An inside view	オランダの文化や社会的背景について学ぶ
2 学期目	
履修科目	授業内容
Schrijven/Grammatica 1B, Taalverwerving 1	オランダ語の書く力・文法力を養う
Lezen/Woordenschat 1B, Taalverwerving 1	オランダ語の読む力・語彙を養う
Nederlandse geschiedenis 2: van Napoleon tot Wilders, Cultuurewetenschap 2	ナポレオン統治時代から 1980 年代のポピュリズムまでを学ぶ

留学レポート(1,500 字以上)

アンネの日記を原語で読みたいという思いからオランダ語学習を決意し留学を心待ちにしていました。オランダに到着したときは夢のようで、1 年間にここでオランダ語を学べることにうきうきしていました。

授業が始まると現実を知りました。そもそも授業レベルが高いうえ、内容が知らない単語ばかりで説明されたからです。オランダの歴史と文学の授業を取っていましたが、これら2教科が私が履修した授業の中で最も難しかったため、共有された授業録音を何度も聞き、単語を覚えながら内容理解に努めました。オランダの歴史では、各セメスターに1度、オランダの歴史にまつわる場所をまわるツアーを教授が企画してくれ、ライデン大学近くの図書館やライデン市内の歴史的遺物や建物を訪れました。教科書で学ぶにとどまらず、かつてその場所で起きた出来事や住んでいた人物の痕跡に注目することができ、historische sensatie を感じました。

アンネフランクハウスを訪れたとき、とても深い感慨を得ました。アンネフランクやその家族らがこの場所で過ごした2年が目前に迫ったからです。日記やその他の書籍もたくさん読みましたが、隠れ家でしか感じられない雰囲気がありました。実物の日記や元住人・協力者らのインタビュー映像は当時の社会の暗さを伝えていて、オランダやユダヤ人らが生きた歴史の記録が後世に残されることが過去を学ぶために不可欠であることを再確認しました。また 9 歳のときアンネの日記に出会ってからずっと隠れ家を訪れたいと切望していましたが、ついにそれがなかった機会でもありました。展示は主にオランダ語で説明されますが、私はそれを理解できるようになってい

たため、9歳の自分の興味が私をオランダまで連れてきてくれたのだと思い感無量でした。私はあるオランダ人家族に大変よくお世話になりましたが、彼らはとてもオープンで彼らの不在時にも私が家を訪れても構わないとか、クリスマスやニューイヤーでは家族や親戚で集まっておいしいごはんを食べながらお話をすることにとても驚かされました。しかし、これらはオランダ人だからというわけではなく、あくまでその傾向が彼らにあっただけで、日本人にもそのような家族は存在するのだろうということに気が付きました。国民性と呼ばれるものにたまたま彼らが当てはまっているだけで、行事の際もあまり集まらない家族もあるだろうし、私が知る家族よりもさらにオープンマインドな家族はあると思います。「オランダはこう」「オランダ人はこう」というステレオタイプ的なものがインターネットでは語られていましたが、実際に全員がそれらに当てはまっているわけではなく、たくさんのケースの中から平均値的なものがピックアップされているだけだと思い当たりました。ただし一定程度の傾向があることもまた事実であり、それが日本では見られないものであるということも念頭に置いておくべきだと思います。重要なのは、ある傾向が他の対象と比較され違いが強調された場合に、実際に現地で観察される現実と乖離が生まれるということ、したがって人物や物事を安易にカテゴライズするべきではないということです。私は5月にオランダで背後にいた自転車に乗っていたグループから故意に水をかけられたことがありましたが、そこで彼らの年齢や容姿からバックグラウンドを決めつけると私の中で負のバイアスが生まれ、似た特徴を持つ人々に対してネガティブな先入観を持って振る舞いかねないと考え、カテゴライゼーションから離れました。そして実際10月に、自転車に乗っていた人が私の自転車のストッパーが下がったまま走行していますよと丁寧に伝えてくれたこともあり、私の容姿ではオランダ語を話すかは分からないのに、彼らはオランダ語で話しかけてくれました。これを思い出したとき、確かに不快な経験をすることもあるけれど初対面でも私を大切に扱ってくれる人もいるのだと安心できたし、自分自身も後者のような人格でありたいと強く感じました。成長できる機会を与えてくれた親に感謝しています。

留学中の写真(10枚程度) ※写真のキャプションをファイル名にすること。



オランダ人一家と寿司パーティー



中国人の友人と火鍋パーティー



21歳のお誕生日のお祝い



WereldMuseum そばでお花見



ジャパンフェスティバルで炭坑節